

ク製の比較)。第44回日本リハビリテーション医学会学術集会。神戸，6月。

- 16) 鈴木 禎，巷野昌子，宮野佐年，安保雅博。当院にて急性期治療が行われた脳卒中患者の経過および転帰。第44回日本リハビリテーション医学会学術集会。神戸，6月。[Jpn J Rehabil Med 2007; 44(Suppl.): S271]
- 17) 巷野昌子，鈴木 禎，宮野佐年，安保雅博。脳卒中（くも膜下出血を除く）発症10日目の端座位保持能力と歩行の転帰。第44回日本リハビリテーション医学会学術集会。神戸，6月。[Jpn J Rehabil Med 2007; 44(Suppl.): S256]
- 18) 高岸敏晃，宮野佐年，猪飼哲夫，安保雅博，武原 格，西 将規，岡本隆嗣，後藤杏里。上咽頭癌に対する放射線治療後6年経過し嚥下障害を発症した1例。第44回日本リハビリテーション医学会学術集会。神戸，6月。[Jpn J Rehabil Med 2007; 44(Suppl.): S451]
- 19) 角田 亘，橋本圭司，榎間 剛，安保雅博。Microbleedの存在は，組織プラスノーゲンアクチベーター投与後の脳出血発生の危険因子になりうるか？ 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会。神戸，6月。[Jpn J Rehabil Med 2007; 44(Suppl.): S277]

IV. 著 書

- 1) 橋本圭司。高次脳機能障害どのように対応するか。東京：PHP 研究所，2007。
- 2) 橋本圭司。高次脳機能障害がわかる本：対応とリハビリテーション。東京：法研，2007。
- 3) 辰濃 尚，安保雅博。急性期のリハビリテーションの課題と展望。京都：金芳堂，2007。

救 急 医 学 講 座

教 授：小川 武希	救急初期診療，脳代謝・頭部外傷
教 授：小山 勉	救急初期診療，外傷・脊椎
准教授：大槻 穰治	救急初期診療，外傷外科，スポーツ救急
講 師：武田 聡	救急初期診療，循環器疾患

教育・研究概要

I. 救急医学講座の概略

本学では平成12年度より，本格的な救急体制が発足した。救急部はこれまでの中央診療部門から病院長直属の診療部として独立し，診療部門に位置付けされた。平成17年5月に，本学初の救急医学講座が発足した。平成19年には新たにレジデント3名を迎え，教授2名，准教授1名，講師1名，助教4名，非常勤2名，計10名の編成となった。

本院は初期治療室7床と14床のオーバーナイトベッド，一般病棟3床，ICU2床を有している。初期救急から神経，循環器を中心とする3次救急の一部までを担っている。また，柏病院では15床の病室を持ち，地域中核病院として初期救急から3次救急までを担っている。本院，柏病院ともに，重症例を含むプライマリケアを中心とする地域のニーズに答える幅広い救急医療を展開している。

II. 教 育

〈学生教育〉

① 講義。救急医学講座では6学年講義ユニット：「救急医学」全体を担い，創傷学，外傷外科学，神経，中毒のユニットの一部を担っている。4学年ユニット「救急医学（中毒の治療）」及び3学年ユニット「創傷学」の講義も担当している。

② 臨床実習。5年生の救急医学臨床実習期間は1週間である。前半を本院，後半を柏病院で実施している。日勤，夜勤をマンツーマン方式で教育を行っている。

③ 選択実習。6年生の選択実習は1カ月である。本院，柏病院でそれぞれ3名ずつ受入れている。

〈初期研修医教育〉

本学の初期研修医は，スーパーローテート方式を採用していたため，厚生労働省の指導による新初期臨床研修制度の施行後も本質的に指導方式は変わらない。救急部研修は全診療科の全面的なバックアップの元に専属医と研修医のOJT (on the job training)

と屋根瓦方式によるマンツーマン方式で行われている。臨床実習では、医療情報の伝達能力、トリアージ、心肺蘇生法、チーム医療の教授に重点を置いている。また、定期的に症例検討会を開催し、各研修医がより深い理解を得られるよう、専属医が指導を行っている。

〈教職員教育〉

心肺蘇生教育の一環として、CPR教育委員会を設立し、教職員を対照に定期的に慈恵 ICLS コース、慈恵 BLS コースを主導開催している。また、公的機関へ向けての講義・講習の依頼も増え、これに対応している。

〈医師への啓蒙活動〉

「JATEC コース(*)」開催担当施設として、コースディレクター・コーディネーターを担当し、コース運営に携わっている(*外傷診療に必要な知識と救急処置を、模擬診療を介して学習するトレーニングコース)。

III. 研究

〈臨床例に基づく研究発表〉

全国規模の頭部外傷データベース検討委員会(日本神経外傷学会)の主管幹事を担当しており、全国規模の重症頭部外傷の疫学的調査を継続して行っている。また、全国の治療標準となる「重症頭部外傷治療・管理のガイドライン」(日本神経外傷学会)改定版を平成19年3月に上梓し、この検証作業を進めている。さらに、「低髄液圧作業部会」での検討を進め、低髄液圧症候群の病態について、より一層の理解を深めることにより、診断方法の確立を目指している。

厚労科研費研究事業である「脳血管障害の診断解析治療統合システムの開発」分担研究者を担当。班会議への出席や学内外での発表に参加している。

自動車技術会会員として、より安全な自動車技術開発について交通事故症例を元に検討する、インパクトバイオメカニクス専門委員会に出席している。

実践的な手術手技を若き外科医に伝えることを目的とした、「外傷外科手術手技研究会(会長:亀田総合病院救命センター長 葛西 猛先生)」の事務局を担当している。

〈救急医療のあり方に関する学際的な研究〉

本院は首都圏の中心に位置するため、救急医療においても地政学的な展開をする運営形態を模索している。大都市災害、スポーツ大会などのマスイベント、航空事故における災害対応への研究を行っている。

また、日本ボクシングコミッション(JBC)より委託され、後方支援病院として脳神経外科医師とともにコミッションドクターを担当しており、プロボクサーの試合に関わる健康管理を行っている。

〈医療連携における救急医療のあり方に関する検討〉

救急部門は24時間継続的に稼動する病院機能の実働部分を担うと考え、各医療機関との連携を図っている。都心部の大規模病院と合同で「救急診療を考える会」を設立している。また「救急」は医師における生涯教育の臨床現場としても有用であると考え医師会を中心に啓発活動を行っている。院内における救急体制(スタットコール体制)の整備を随時行っている。

IV. 診療

全診療科の全面的な協力の元に初期救急から3次救急までを担う。柏病院では地域の3次救急医療施設の役割を担い、本院は特定機能病院としての高度なプライマリケアを主体とし、特に消化器、呼吸器、循環器、神経系、感染症の救急医療を中心に展開を試みている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 沢内 聡¹⁾, 村上成之¹⁾, 小川武希¹⁾, 阿部俊昭¹⁾(日本頭部外傷データベース検討委員会). 頭部外傷データベースにおける急性硬膜下血腫とびまん性脳損傷の受傷機転と病態の比較, 検討. *Neurol Surg* 2007; 35(7): 665-71.
- 2) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 交通事故による急性硬膜下血腫: 頭部外傷データベース1002例の検討. *日交通科協会誌* 2008; 7(1): 24-8.

II. 総説

- 1) 吉岡雅之, 筒井信浩, 大熊誠尚, 三宅 亮, 伊藤吉賢, 大橋一善, 小山 勉. 当院における過去1年間の救急受診患者の傾向と解析. *慈恵医大誌* 2008; 122(2): 89.
- 2) 小山照幸(聖マリアンナ医科大学東横病院), 笠井督雄, 吉田和彦, 武田 聡, 小川武希. 病院職員に対する心肺蘇生法教育(第3報). *蘇生* 2008; 27(1): 50-4.
- 3) 沢内 聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭. 急性硬膜下血腫とびまん性脳損傷の受傷機転, 病態 頭部外傷データベースの検討. *慈恵医大誌* 2007; 122(4): 174-5.
- 4) 大谷 圭, 小山照幸, 武田 聡, 笠井督雄, 太田 眞,

吉田和彦, 小川武希. 当院の院内救急システムの検討. 蘇生 2007; 26(2): 123-8.

- 5) 武田 聡, 松本孝嗣, 小川武希. 【救急医療・災害医療におけるシミュレーション学習】救急医療におけるシミュレーション学習の実際 蘇生とシミュレーション学習 ACLS. 救急医学 2007; 31(11): 1461-6.

III. 学会発表

- 1) 大槻穰治, 奥野憲司, 武田 聡, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 小山 勉, 小川武希, 沼田美和子¹⁾, 大越裕文¹⁾, 加地正伸¹⁾(¹日本航空インターナショナル). 当院の航空会社と連携した航空機事故の支援態勢. 第10回日本臨床救急医学会総会. 神戸, 5月.
- 2) 小川武希, 徳富孝志¹⁾, 川又達朗 (日本大学), 重森稔¹⁾(¹久留米大学). 改訂された重症頭部外傷治療・管理のガイドラインについて. 第27回日本脳神経外科コンGRESS総会. 仙台, 5月.
- 3) 明石 卓, 伊藤吉賢, 大橋一善, 大谷 圭, 小山 勉, 松尾七重, 小倉 誠, 加藤社紀, 増井文昭. B 群溶連菌による壊死性筋膜炎に対し CHD および外科的処置により救命しえた1例. 第8回千葉急性血液浄化研究会. 千葉, 5月.
- 4) 大槻穰治, 奥野憲司, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 小山 勉, 小川武希, 佐藤 順 (日本大学), 不動寺純明¹⁾, 葛西 猛¹⁾(¹亀田総合病院). 外傷性肝損傷における Resectional debridement. 第21回日本外傷学会. 千葉, 5月.
- 5) 佐藤 順¹⁾, 斎藤 豪¹⁾, 櫛 英彦¹⁾, 丹正勝久¹⁾(¹日本大学), 大槻穰治, 不動寺純明²⁾, 葛西 猛²⁾(²亀田総合病院). 重症型肝損傷 (IIIb 型+傍肝静脈損傷) に対する手術手技. 第21回日本外傷学会. 千葉, 5月.
- 6) 吉田昌弘, 倉重真大, 石山 守, 小山友己, 三宅 亮, 伊藤吉賢, 小沢律子, 大橋一善, 大谷 圭, 小山 勉. インフルエンザ感染症に合併した横紋筋融解症の1例. 第3回千葉重症感染症研究会. 千葉, 6月.
- 7) 卯津羅雅彦, 武田 聡, 奥野憲司, 大瀧佑平, 大谷 圭, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 臨床実習期間中における心肺蘇生法教育. 日本蘇生学会第26回大会. 岡山, 10月.
- 8) 大瀧佑平, 大槻穰治, 卯津羅雅彦, 武田 聡, 奥野憲司, 大谷 圭, 小山 勉, 小川武希. MRI DWI で広範な蘇生後脳症像を呈するも良好な経過が得られた一例. 日本蘇生学会第26回大会. 岡山, 10月.
- 9) 小川武希. 頭部外傷データベースプロジェクト 2004の概要. 第66回日本脳神経外科学会総会. 東京, 10月.
- 10) 松本孝嗣, 武田 聡, 奥野憲司, 大橋一善, 大谷 圭, 片山 晃, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 大槻穰治, 小山 勉, 笠井督雄, 小川武希. 慈恵医大における ICLS コース開

- 催の現状と問題点. 第124回成医会総会. 東京, 10月.
- 11) 平田雅文¹⁾, 坂本哲也¹⁾(¹帝京大学救急医学), 有賀徹 (昭和大学), 重森 稔 (久留米大学), 卯津羅雅彦, 小川武希. 日本神経外傷学会頭部外傷データベース 2004 報告【第一報】. 第35回日本救急医学会総会. 大阪, 10月.
 - 12) 大貫隆広¹⁾, 坂本哲也¹⁾(¹帝京大学救急医学), 有賀徹 (昭和大学), 奥寺 敬 (富山大学), 太田富雄 (福岡教育大学), 小川武希, 中村紀夫. 重症頭部外傷における Emergency Coma Scale の有用性について—日本神経外傷学会頭部外傷データベース 1002 例の検討—. 第35回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪, 10月.
 - 13) 卯津羅雅彦, 小川武希. 重症頭部外傷急性期における ICP 管理による治療手段の選択. 第35回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪, 10月.
 - 14) 武田 聡, 奥野憲司, 吉田裕志, 滝沢信一郎, 笠井督雄, 卯津羅雅彦, 大槻穰治, 小川武希. 慈恵医大における院内救急コールに対する AED を使用した救急対応プログラム. 第35回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪, 10月.
 - 15) 武田 聡, 松本隆嗣, 奥野憲司, 大橋一善, 鹿瀬陽一, 笠井督雄, 片山 晃, 卯津羅雅彦, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 慈恵医大における ICLS コース開催の現状と問題点. 第35回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪, 10月.
 - 16) 大槻穰治, 佐藤 順¹⁾, 奥野憲司, 武田 聡, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 小山 勉, 小川武希, 櫛 英彦¹⁾, 長尾 建¹⁾, 丹正勝久¹⁾(¹日本大学). Necrotizing Soft Tissue Infections の治療経験. 第35回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪, 10月.
 - 17) 徳富孝志¹⁾²⁾, 小川武希¹⁾, 重森 稔¹⁾²⁾(¹頭部外傷データベース検討委員会 (日本神経外傷学会, 日本交通科学協議会), ²久留米大学). The impact of age on traumatic brain injury. 韓国応急医学会. ソウル, 11月.
 - 18) Shimizu K, Takenaga S, Mogami T, Namiki T, Koyama T, Harada J. CT-guided percutaneous laser disk decompression (PLDD) for lumbar disk hernia—results and efficacy in 297 cases—. 第19回先端医療技術学会国際会議 (SMIT 2007). 仙台, 11月.
 - 19) 奥野憲司, 遠藤慎一¹⁾, 卯津羅雅彦, 平沼浩一, 武田 聡, 大槻穰治, 小林博雄¹⁾(¹石岡脳神経外科), 小川武希. 刃物により気管断裂, 甲状腺断裂, 外傷性頸動脈内膜損傷を来した一症例. 第58回日本救急医学会関東地方会. さいたま, 2月.

IV. 著 書

- 1) 大槻穰治. 5. 胸腹部外傷. 公認アスレティックト

レーナー専門科目テキスト 第3巻：スポーツ外傷・障害の基礎知識。東京：日本体育協会，2007. p.170-6.

- 2) 小川武希. I. 救急医学総論, VI. 急性中枢神経障害. 井上大輔, 小川武希編著. STEP 救命救急. 東京：海馬書房, 2007. p.3-34, 140-54.
- 3) 大槻穰治. VII. 外傷. 井上大輔, 小川武希編著. STEP 救命救急. 東京：海馬書房, 2007. p.157-91.
- 4) 奥野憲司, 小川武希. 3章 緊急治療 II 外傷 1. 頭部外傷 1)骨折：陥没骨折（閉鎖性，開放性），視神経管骨折. 日本脳神経外科救急学会編，神野哲夫，河本圭司監修. すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック. 大阪：メディカ出版，2008. p.204-8.

V. その他

- 1) 伊藤朝子, 武田 聡, 片山 晃, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 大槻穰治, 小川武希. 防水スプレー吸入とその後の喫煙により発症したと考えられた急性肺障害の一例. 日臨救急医学会誌 2007; 10(5) : 534-8.

内 視 鏡 科

教授：田尻 久雄	消化器内視鏡診断・治療, 胆膵内視鏡診断と治療
准教授：貝瀬 満	消化器内視鏡診断・治療, H.pylori・消化管発癌の基礎的臨床的研究
准教授：角谷 宏	胆道内視鏡, 門脈圧亢進症の画像診断
講師：加藤 智弘	消化器内視鏡診断・治療, Peyer's patch, 特にM細胞を中心とした消化管免疫機構
講師：鈴木 武志	消化器内視鏡, 消化器癌・大腸腫瘍の診断及び治療, 赤外線内視鏡
講師：松田 浩二	消化器内視鏡診断・治療, 特に超音波内視鏡・内視鏡データベース・教育システム・洗浄消毒
講師：今津 博雄	胆・膵内視鏡, 超音波内視鏡, 門脈圧亢進症, 消化器病学

教育・研究概要

I. 上部消化管および咽頭悪性疾患に関する研究

1. 胃食道悪性腫瘍の内視鏡診断に関する研究

食道癌, 胃癌を早期に発見し正確な診断をすることは, 適切な治療を選択, 実行する上で重要である。従来の内視鏡診断に加え, 画像強調技術を用いたより精度の高い内視鏡診断を行い, またその意義を科学的に明らかにするために前向き試験を行ってきた。また, 近年患者にやさしい内視鏡として開発された極細径内視鏡を経鼻的に挿入する経鼻内視鏡が実地医家に普及してきたが, 大学病院としての意義についても検討している。以下の新たな取り組みを行っている。

1) 狭帯域フィルター内視鏡 (Narrow Band Imaging: NBI) システムを併用した拡大内視鏡観察: 80倍の拡大観察に特殊な光源システムを併用したもので, 粘膜表層の微細模様や毛細血管を観察できる。生検によらない胃癌の組織型・深達度診断や病巣の進展範囲の診断, Barrett 食道における癌の発生母地としての特殊円柱上皮の同定に関して検討し, それらの成果はすでに国内外の学会, 論文にて報告している。また, NBI 拡大内視鏡による癌診